

6 宇都宮の新しい資源「LRT」と活用したブランド力の向上

奥備一彦

(1) ブランド力の弱い栃木県と宇都宮市

「栃木県」といって3は影が薄いね。「栃木は青森の下にあるから東北なんだよね」「宇都宮ってどこ？何県にあるの？」など、広島県生まれの私が、墓参などで郷里に帰ると、よく問われる。最近では宇都宮とギョーザと結びつけて話してくれる人も多少見かけるが、関西より西の地方で、栃木県と宇都宮の位置やどんな所かを知っている人は大変少ない。

民間調査会社のブランド総合研究所(東京都)が発表した「地域ブランド調査2013」で、栃木県の都道府県魅力度ランキングは41位...5年連続40位台。...また本県に対するイメージの有無を示す「イメージ想起率は60.9%。これは残りの40%がほとんどイメージがわからないことと意味している¹⁾。

毎年、県も市も知恵と経費と労力と時間をかけてブランド力アップの活動をしているが、その成果が現われていない。栃木県全体のPR活動では、他県にも類似のものがあったり、PRの視点が分散して、成果に結びつかないことも考えられる。

そこで、宇都宮市が導入を目指している、新しい地域資源「次世代型ハイテク路面電車LRT」²⁾と既存の地域資源とのコラボレーションによる活動を通して、他都市に真似のできない、差別化された、面白さ・新鮮さ・大切さを感じさせる2つの案を提示したい。

- (注)
1. 「本県の魅力度41位」(下野新聞 2013.9.28付) 西に1位北海道 47位茨城県
 2. 「第1回 芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」平成25年11月21日、
「第2回 同上」平成25年12月17日 }より

導入ルート: 桜+文字 ———— JR宇都宮駅 ———— 本田技研北門
← 第2期 3km → ← 第1期 15.2km →

工事完了(開通)時期

2014.1.17付の朝日新聞朝刊、向以下野新聞によると、宇都宮市長は「2018~19年あたりには運行開始を目指したい」と述べた。これは「5~6年先」との表現しかしてはいるが、具体的な年を表明したのは初めてであるが、また市長の感覚の域と出ない。第2期については「いまはそんな状況にはない」と発言。

(2) LRTとは

3つの特徴を挙げると

① 窓が大きく、車の座席の目の高さからゆくり流れる街中の景色や人の動きが楽しめる。逆に道路から車内の様子もよく見える。優れたデザインの電車はまちと調和し、正に「動く回廊」とも呼ばれる。

② 超低床車

従来の電車は、車軸の両端に車輪があり、その上に箱(客室)を乗せる構造のため、出入口も床も地上から1m以上の高さになる。また階段がある。LRTはそれぞれの車輪を独立したモーターで回転させるので、車軸を伏用しないため、出入口の高さは車輪の半径分の約35~40cmくらいにすることができ、床もその延長ですべてフラットである。車椅子の人でもゆみやかなスロープとめぼり30~40cmのフラットホームから人の手を借りることなく簡単に乗降りでき、段差がないので移動も容易である。バリアフリーである。

③ 騒音(振動)低減

もう一つ注目すべきは従来のレールと違う溝レールを使用していることである。しかもその外側を樹脂で覆い、コンクリートの路盤に埋めることで騒音(振動)を低減できる。揺れが少なく滑るように走るから読書にも最適である。

①②③すべて満たすものがLRTである。

フランスでは22都市(2011.7.1現在)、それ以上に多いドイツ、オランダ他EU諸国、更に自動車王国のアメリカにおける最近の多くの事例があり、オーストラリアそして中国にも導入されている。

日本では、上記②の車両(LRV: Light Rail Vehicle)が既存のレール上と旧型路面電車と混在して運行されている都市が、広島、福井、熊本など数都市ある。①②③の条件をすべて満たしているのは、2014.1.6現在富山の1.1kmのみである。

(3) 2つの提案

提案1. 地球温暖化防止にLRTが貢献——日常

我国の国土面積3,779万haのうち森林面積は2,510万ha、実に国土の3分の2が森林に覆われ、世界有数の森林国である。森林には多くの機能が、生物多様性保全、土砂災害防止、水源涵養、地球環境保全、快適環境形成、健康・レクリエーション、文化、物質生産など。地球環境保全の一つである光合成による二酸化炭素の吸収が地球温暖化を緩和する機能を貨幣評価すると年間1兆2391億円となる⁴。栃木県も二酸化炭素吸収源対策と

(注) 3. グアンソン・藤井由美『ストラスブルのまちづくり』2011.9.15. 学芸出版 P.31.

4. 林野庁『森林・林業白書』平成25年度版 2013.7.5 農林統計協会 PP.84~85.

して森林整備の推進を掲げている。県土面積約64万haの55%にあたる35万haが森林である⁵。

LRTが、森林や里山、街路樹や公園など、緑の保全・育成に少しでも貢献できれば⁶、と思い、次の通り提案する。

LRTの需要予測を、宇都宮市は、1日の乗客44,900人⁶とし、初乗り150円⁷に設定した。150円の内5円を「緑の保全・育成基金」とする。1日で224,500円(5円/人×44,900/日)、1年で82,942,500円(224,500円/日×365日)が集まる。これを用いて日光連山の森林の手入れ、日光・例幣使街道の杉並木の保全、足尾に植林茂木の里山の保全等を使う。緑の保全・育成にふともみらされる二酸化炭素の吸収量が算出され、前日の乗車人数と基金を以て二酸化炭素の吸収量 更にこれらの年初からの累計をLRT車内に表示する。LRT乗車によって地球温暖化防止に貢献していることと市民皆さんで実感する。環境保全の意識向上と活動に参画していることの満足感がLRT利用者を増加させ、LRT事業の採算性の好転にも資する。市民のプライドも高まり正に一石二鳥である。

提案2. LRTと既存の地域資源のコラボレーション——非日常

6月10日は白丁(路電)の日である。6月10日の週を「路電週間」としてイベントを行う。

① 金・土曜日の夜

ジャズ演奏とカクテルに乗せたLRTと多数本運行
キョーザ・地酒まつりと各電停附近で実施

② 土・日曜日の昼間

June Bride —— LRTで結婚式 披露宴
ストリートパフォーマンス 全国大会

③ 週を通して

各電停で農産物、郷土の工芸品、地酒、B級グルメ等の販売
各地の民芸・祭の披露

2020年オリンピック・パラリンピック、2022年に栃木国体の開催も決った。世界からそして日本全国から多くの人が栃木に来られる。それまでにはLRTの計画全線18.2kmを完成させ皆さんを迎えたい。宇都宮に乗った全天下の人にLRTに乗ってもらいLRTを用いた種々のイベントにも参加させ楽しんで。宇都宮そして栃木全体に好印象を持ってもらえるようにしなければならぬ。イメージアップ・ブランド力向上に願っても無いチャンスである。

(注) 5. 『栃木県環境白書』平成25年度 P.162

6. 「第1回 茅賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」平成25年11月21日 添付資料3

7. 「第2回

全上

」平成25年12月17日 添付参考資料 P.3.